

五月は皐月。さわやかな風薫る五月。サツキと呼ぶのは、早苗月を略したものだそうです。

「サ」は田の神を意味する言葉で、田植はじめての行事をサオリ、田植の終わりの行事をサノボリと呼ぶのは、田の神が天上から降臨するのを迎え、また昇り帰られるのを送る意味です。サツキは田の神祭りの月のことで農民にとっては最も大切な季節でした。



【八十八夜】五月二日頃

立春から数えて八十八日目。「八十八夜の別れ霜」といい、昔は霜の心配がなくなると、苗代に種まきして稲作にとりかかりました。八十八という字は、組み合わせると米という字になり瑞穂の国の農民には特別に重要な日でした。この八という数字は、「末広がり」でめでたく、数霊は神秘的で崇高なものであるという意味をもっているようです。八という数字は、中国では古くより非常に重大な意味をもっていました。紀元前十世紀ごろまとめられた易経における八卦に関係していて、宇宙のすべては、陰と陽を八卦で組み合わせることによって生まれるとされています。

わが国最初の書物「古事記」、また「日本書紀」には、八百万の神、大八島、八尋殿、八咫鳥、八咫鏡、八重雲・・・三種の神器の、八咫鏡・八坂瓊勾玉と、鏡、玉に八の形容詞を冠らせています。

八は多大の意の日本における聖数であり、呪力のある数といえるのです。

【節句って、なあに?】

五節句の「節」というのは、唐時代の中国の暦法で定められた季節の変わり目のことです。暦の中で奇数の重なる日を取り出して(奇数(陽)が重なる)と陰になるとして、それを避けるための避邪(ひじや)の行事が行われたことから、季節の旬の植物から生命力をもらい邪気を祓うという目的から始まりました。この中国の暦法と、日本の農耕を行う人々の風習が合わさり、定められた日に宮中で邪気を祓う宴会が催されるようになり「節句」といわれるようになったそうです。

【端午の節句】五月五日

端午は月の初めの午の日という意味で、五月は午の月に当たるので重午(ちようご)と、午の月の午の日が選ばれ、重五となり、五月五日に固定しました。



武士の時代になってからは、勇壮な行事が端午

に集中する傾向となり、さらに尚武(武を尚ぶ)と菖蒲の音通から雛節句と対照する男子の節供とされました。飾り物としては、外飾りとして武者絵の幟、鯉幟、内飾りとして兜や武者人形があります。この人形は八幡太郎(源義家)や加藤清正、楠木正成など、尊敬する人物を飾りました。この

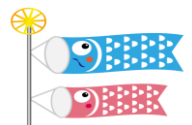
人形の由来は、邪気を人形にうつす形代に始まることと。

鯉のぼりは、門松などのように神を招くためのアンテナだそうです。急流を上っていく鯉のように、勇ましく元気な子に育ってほしいとの親の願いでもあります。

「やさしい おかあさま」



わたしがおねむに なったとき
やさしくねんねん こもりうた
うたってねかせて くださった
ほんとにやさしい おかあさま
夏はねびえを せぬように
冬はおかぜを ひかぬよう
おふとんなおして くださった
ほんとにやさしい おかあさま
わたしが大きく なったなら
ご恩をお返し いたします
それまでたっしやで まってね
ほんとにやさしい おかあさま



和歌コーナー



おとがなる ペんぺんぐさだよ おもしろい
てでくるくると まわしたんだよ

年中 M・S

☆初めての和歌作り。思ったことを素直に言葉に
表現できて、素晴らしいですね。

まわしたら つんつんだったよ ペんぺんぐさ

いろんなはなが さいているよ

年長 K・S

☆ペんぺん草を回し、音がなって楽しかったです
ね。春のいろんな花がきれいに咲いていましたね。

ぺんぺんぐさ おとがなったよまわしたよ

おもしろかったよ またやりたいな

年長 H・H

☆春の草をつんで、いろんな遊びができますね。
ね。みんなでまわしておもしろかったですね。

しゅう字でね おじょうさんをかいたんだ

はじめてだから むずかしかったよ

ピーピー草 ならすことはね むずかしい

お母さんにね 教えてもらった



シロツメ草 お母さんがね 作ったよ

かわいくあんで うれしかったよ

小学三年 J・R

☆Rちゃんのお母さんは、シロツメ草でうでわを作
るのがじょうずですね。すてきでしたね。

はるの花 いっぱいさいて きれいだな

なつあきふゆの 花もたのしみ

小学四年 Y・Y

☆ふじ、フリージア、からすのえんどう、たかなの
花、シロツメ草の花、いろんな花がきれいですね。

夏や秋にはどんな花がさくかしら？寒い冬に咲く花
ってどんなのかしら？楽しみですね。



和歌ノートにメモしよう

「青葉」「若葉」「あじさい」「かたつむり」
「雨」「かさ」「にじ」「あり」「ちょうちよ」
など身の回りの物や事をよく観察して、感
じた事や思ったことを『和歌ノート』に、
メモしておきましょう。絵をスケッチす
るみたいに、思いついた言葉をそのまま書
きとめましょう。その言葉をいろいろ工夫し
て並べると和歌ができますよ。

今月の論語

子、曰わく、

「三人行えば、必ず我が師有り。」

其の善なる者を挾びて之に従い

其の善ならざる者にして

之を改む。」

孔子先生がおっしゃった。

「三人が行動すれば、その中には必ず私
が学ぶべき師がある。その中の善い人を
選んでそれを見習い、善くない人を見て
は、(わが身を反省して)改めるからだ。」

みなさんのまわりにはいろいろな人がい
ます。お手本となる人がいます。お手本
となる人を見つけたら、見習ってみまし
よう。反対に、よくないことをしてい
る人を見たら、自分も同じことをしてい
ないか、考えてみましょう。もしよくない
所があつたら直しましょう。

「こども論語塾」(ポプラ社)より

次回寺子屋は 六月二十四日(土)です。

西宮市立中央公民館 601室

※「生命の教育講演会」五月二十七日(土)

「子供に伝えたい日本の心」中央公民館 601室

◎ぜひ、ご参加下さいませ。(文責・藤波)